

あらき由美子 2024年 7月184号 **くらしの相談センターだより**

南区通町1-12-4-104 TEL:045-714-1820 FAX:045-714-1825 図:araki.jcp@gmail.com 発行:南区くらしの相談センター

なぜ?被災地の復興進まず

6月12日から14日まで、共産党市議団と一緒に能登半島 地震の被災地支援に行きました。横浜市議団に寄せられた物 資をワゴン車いっぱいに積み込み、載せきれない物は宅配便 で届けました。現地では日本共産党と各種団体が共同で"被



災者共同支援センター"を立ち上げ、全国から集まる支援物資を小分けに

して仮設住宅に届けています。

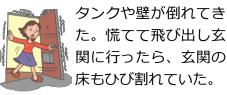


私たちは共同支援センターからレンタカーで仮設住宅に向かいましたが、手付かずの倒壊家屋や道路状況に驚くばかり。仮設住宅では、支援物資を渡しながら、被災した状況や要望などをお聞きしました。

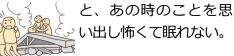
珠洲市ではほとんどの住宅が全壊

仮設住宅に入居された方たちは、 自宅が半壊や全壊です。特に珠洲 市では、一帯の家々が全壊してい る地域もありました。

70代の女性は、トイレに入った途端に大きく揺れて、トイレ



近所の若い人が「おばさんどこにいる!」と声をかけて、つぶれた家から引っ張り出してもらった80代の女性は、また地震で揺れる



被災地に宿泊施設は皆無。私たちも金沢市内の宿から珠洲市まで、車で片道3時間もかかりました。活動拠点となる宿泊施設が必要です。

市議団に寄せられた募金1,694,716円は、輪島市長に手渡しました。

被災者に寄り添って欲しいのに 私たちは、見捨てられている

やっと仮設住宅に入居できたが、 全壊した家からは家財道具を何も運 び出せない。何もないのに、仮設入 居は自立とみなされて何も支援が受 けられなくなる。

仮設住宅は2年したら出なければい けないので、その先が不安。

木造仮設住宅に入居予定の80代女性 は、2年後には600万円で住宅を買い 取るか、毎月家賃を支払うようになる

> と言われ、こ の先が不安。

「半年もたっているのに、 被災地の状況は改善していな い。復興・支援がぜんぜん進 んでいない。国も県も私たち のことを見捨てていると感じ る」この言葉は重く響いた。

「食料が底をつく」との連絡に 食料を届けたグループホームは、 定員以上の入所者がいるから、定 員を守るように市から指導されて いる。要介護の方は仮設住宅に入 れず、行先が見つからない。受け

入れ先を探す事こそ市の やるべき仕事では?



古谷市議団長

めていきます。地震の教訓を生か横浜でも能登半島

生活再建へ希望の持てる対策を

日本共産党は「被災者の生活再建の現実を ふまえた柔軟できめ細かな対策を講じるこ

と、そのために必要な知恵と力を集中することが求められている。"能登で生きる希望を"政治の責任で救援・復興へ」と内閣府に申し入れました。

日本共産党横浜市議団主催横浜防災シンポジウム

- 能登半島地震の経験を横浜でどう活かすか -

7月14日(日) 13:30~16:00頃まで 神奈川県民センター 2階ホール

講師

高林秀明 熊本学園大教授

阪神・淡路大震災時に、 仮設住宅や復興について 研究。熊本地震では自身 も被災。能登半島地震発 災数日後から現地で活動。



市議団が市内全域に配布した防災アンケートには、 災害対策への要望や不安等多くの声が寄せれらました。 能登半島地震被災地支援では、現地の様子を見て、 被災者の声を聞いてきました。

もし大都市横浜に大地震が来たら…